

## 釧路川堤防調査検討会（第1回）議事要旨

- 月日 平成28年9月28日（水）13時15分～15時10分
- 場所 北見工業大学 社会環境工学科会議室
- 出席 別紙のとおり

### <委員による現地調査結果>

○KP45.8付近（富士樋門上流）現地調査結果（9/5に堤防天端で表面波探査を実施）

- ・今回の変状箇所以外の箇所でも法面には小規模な滑落が見られた。
- ・変状している箇所のS波速度が遅く（強度の弱い部分）、無被災箇所ではS波速度が速い状況である。

### <わかったこと、検討会で確認できたこと>

- ・天端が舗装されているので天端に降った雨水は法肩や法面に浸透する。
- ・変状した箇所は、天端が縦横断的に低みになっており雨水が集中しやすい状況であった。
- ・変状した箇所は、支持地盤の透水性が低い状態であり、堤体底部は水位が上昇し易い状態になっている。
- ・今回の変状は、雨水が入れば崩壊しやすいシルト質の盛土材料のところに、雨水が天端の低みに集まりそこが先行的に崩壊した、と解釈するのがよい。
- ・変状した箇所は、H27に段切り施工を行った箇所であったが、施工時の密度管理は適正であり施工管理上の問題ではないと思われる。

### <現時点で解明できないこと>

- ・今回の変状が、天端肩に集中した雨水の浸透に起因するものなのか、法面の雨水浸透により水位が上昇して起きたものなのかは不明。

### <復旧に向けて>

- ・可能な限り天端及び法面からの表面水を入れないような遮水対策を行い、雨水浸透しても法が滑らないように法面の緩勾配化を図ることがベスト。
- ・まずは雨水を入れない対策を実施し、時間をかけて検討を行い緩傾斜にするという段階的な対応が良い。
- ・雨水を入れない対策として、舗装から法面にかけて遮水するなど何かで覆う対策を推奨。
- ・均一性のある良質土を大量に確保するのは難しいので、まずは、以上の対応を実施する。

### <今後について>

- ・既往の照査断面とは堤体材料が違うので、変状箇所の地盤構成を確認したうえで浸透流解析と安定解析を実施することが良い。
- ・浸透流解析は、今回のような進行性破壊をどのように解析するのが課題。
- ・安定解析は、降雨量に応じて地盤強度を下げていく方法が考えられる。

### <その他>

- ・次回は10月下旬頃に開催する予定。報告書（案）をとりまとめる。